

# 南極研究観測シンポジウム プログラム第1.4版 2007年6月15日 国立極地研究所6階講堂

口頭発表				
開始時刻	時間	氏名	所属	タイトル
9:00	0:05	藤井理行	国立極地研究所	所長挨拶
9:05	0:10	白石和行	国立極地研究所	趣旨説明
		座長:堤 雅基		
9:15	0:15	飯塚芳徳	北海道大学低温科学研究所	南極宗谷流域、しらせ流域の末端氷(裸氷、底面氷)に関する研究
9:30	0:15	大島慶一郎	北海道大学低温科学研究所	海氷の厚さと生産量のモニタリング観測及び集中観測
9:45	0:15	青木 茂	北海道大学低温科学研究所	南極海洋子午面循環過程の解明と監視
10:00	0:15	吉川久幸	北海道大学大学院地球環境科学研究院	Improving our knowledge on the vulnerability of the oceanic CO <sub>2</sub> sink in the Southern Ocean
10:15	0:15	松岡健一	ワシントン大学	Deglaciation of coastal Dronning Maud Land, East Antarctica
10:30	0:15			休憩
		座長:田口 真		
10:45	0:15	長田和雄	名古屋大学大学院環境学研究科	南極大気エアロゾルの起源
11:00	0:15	宮町宏樹	鹿児島大学理学部	能動的・受動的震源による東南極大陸の広域地震探査
11:15	0:15	堤 雅基	国立極地研究所	南極昭和基地大型大気レーダー計画
11:30	0:15	中井直正、他南極天文コンソーシアム	筑波大学物理学専攻、他	ドームふじ基地における天文観測
11:45	0:15	斎藤芳隆	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部大気球観測センター	南極における気球実験の展望
12:00	0:15	外田智千	国立極地研究所	初期地球から(南極)大陸形成まで
12:15	0:45			昼食
13:00	1:00			ポスター1
		座長:牛尾収輝		
14:00	0:15	山内 恭	国立極地研究所	トップダウンの流れ - 科学技術・学術政策の動向と国際情勢
14:15	0:15	渡辺健太郎	宇宙航空研究開発機構	南極における波長3-300ミクロン(テラヘルツ帯)で見る天文学
14:30	0:15	福家英之	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部大気球観測センター	南極における気球を用いた宇宙線観測実験
14:45	0:15	奈良岡浩、野口高明、丸岡照幸、三河内岳、橘 省吾、橋爪 光、寺田健太郎、中村智樹、北島富美雄、三田 肇、三澤啓司、今栄直也、海田博司、山口 亮、小島秀康	岡山大、茨城大、筑波大、東大、大阪大、広島大、九州大、福岡工大、極地研	東南極における隕石探査と微小地球外物質の研究I: 隕石探査
15:00	0:15	小野高幸	東北大学大学院理学研究科	オーロラ帯におけるロケットを用いた直接観測
15:15	0:15	中村卓司	京都大学生存圏研究所	南極における中層・超高層大気的光・電波観測-昼夜・夏冬観測の重要性
15:30	0:15	石原吉明、山本真行、金尾政紀	国立天文台、高知工科大学、国立極地研	南極におけるインフラサウンド観測計画
15:45	0:15	中里真久、永井智広、酒井 哲、真野裕三、江崎雄治	気象研究所、気象研究所、気象研究所、気象研究所、気象庁	対流圏オゾンDIALを用いた南極における地上オゾン急減現象の観測研究
16:00	0:30			ポスター2
		座長:高橋晃周		
16:30	0:15	遊馬芳雄	琉球大学理学部物質地球科学科	南極昭和基地でのメソスケール気象予報実験
16:45	0:15	島 伸和	神戸大学	南極プレート周辺の海底拡大系の研究
17:00	0:15	伊村 智、工藤 栄、内田雅己、神田啓史	国立極地研究所	Antarctic ice sheet - a frontier of biosphere on the Earth
17:15	0:15	本山秀明	国立極地研究所	南極氷床内陸域の新たな研究観測の展開 IPICS, CliCと新領域研究からのアプローチ-
17:30	0:15	西村浩一	新潟大学	地吹雪の広域自動計測による南極氷床の積雪再配分量の評価
17:45	0:15	杉山 慎	北海道大学低温科学研究所	熱水ドリルによる氷掘削を利用した氷床沿岸部における研究観測
18:00	0:15	大野義一朗	東京勤労者医療会代々木病院外科	世界の南極医学研究のなかで「日本」を、日本の医学研究の中で「南極」をアピールする研究活動をめ
18:15	0:15			総合討論
18:30	1:30			懇親会(18:30-20:00)

ポスター発表			
	氏名	所属	タイトル
	高橋晃周	国立極地研究所	海氷域におけるアデリーペンギン周年生態観測
	富川喜弘	国立極地研究所	南極昭和基地における水蒸気ゾンデ観測
	船木 貴	国立極地研究所	小型無人航空機Ant-Planeによるリュツォホルム岩体とナピア岩体の磁場探査
	川勝 望、長尾 透、市川 隆	国立天文台、国立天文台、東北大	Physical link between the growth of supermassive black hole and star formation:Importance of the high spatial resolution in the mid infrared
	三浦英樹	国立極地研究所	新生代の南極氷床・南大洋変動史の復元と地球環境
	野木義史	国立極地研究所	観測船や航空機を用いた超他陸の分裂と形成に関する研究の将来計画
	齊藤隆志	京都大学防災研究所	氷床質量収支に関する氷床縁辺部での観測計画
	橋田 元	国立極地研究所	南極・他大陸間フライトを利用した対流圏および下部成層圏における温室効果気体の鉛直・水平分布と変動の観測
	土井浩一郎	国立極地研究所	東南極における絶対重力・GPS測定 -総合的測地技術による氷床変動検出に向けて-
	青山雄一	国立極地研究所	GPS反射法を用いた海氷・氷床表面計測 ~総合的南極氷床変動検出に向けて~
	飯田高大、笠松伸江、工藤 栄	国立極地研究所	南大洋における気候変動と関連した生態系変動機構の解明
	野村大樹、吉川(井上)久幸、白澤邦男	北大・院・環境科学院、北大・院・環境科学院、北大・低温研	海氷の生物地球化学:海氷中の気体・微量元素の動態について
	市川隆	東北大学大学院理学研究科天文学専攻	南極2m赤外線望遠鏡計画
	塩見こずえ	京都大学大学院情報学研究科	アデリーペンギンは水中でコミュニケーションをとっているか?
	鍋島愛絵	大阪府立大学大学院工学研究科物質・化学系専攻	Photochemistry of Polycyclic Aromatic Hydrocarbons in snow
	平沢尚彦	国立極地研究所	昭和基地及び南極氷床上の降水と水蒸気分布の観測
	内田雅己、伊村 智、工藤 栄、神田啓史	国立極地研究所	Studies on nutrient dynamics and cycling in the Antarctic terrestrial ecosystems
	榎本浩之	北見工業大学	氷床-気候系の変動機構研究2002のその後と課題
	佐藤由佳、小野高幸、佐藤夏雄、宮岡宏、門倉 昭	東北大学大学院理学研究科	南極におけるMF帯オーロラ電波観測の将来計画
	島田裕之	水産総合研究センター遠洋水産研究所	海氷域における鯨類目視観測
	門倉 昭	国立極地研究所	無人オーロラ観測点の展開
	野口高明、奈良岡浩、丸岡照幸、三河内岳、橘 省吾、橋爪 光、寺田健太郎、中村智樹、北島富美雄、三田 肇、三澤啓司、今栄直也、海田博司、山口 亮、小島秀康	茨城大、岡山大、筑波大、東大、大阪大、広島大、九州大、福岡工大、極地研	東南極における隕石探査と微小地球外物質の研究II:微小地球外物質